

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590300240		
法人名	株式会社 清流		
事業所名	グループホーム おものがわ		
所在地	〒013-0208 横手市雄物川町沼館字佐田10-1		
自己評価作成日	令和2年5月12日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲には横手市雄物川地域局、図書館、協力病院、横手警察署雄物川駐在所が隣接し、向かいには24時間稼働のコンビニと会社や大型スーパー等の社会資源に恵まれた立地環境下にある。また、数百メートル先には同法人のショートステイ(30床)があるため、災害時等の応援や支援協力体制が確保されている。医療面においては、協力病院の緊急時の往診を頂けるなどの看取りも自然な形でやっている。「地域に根ざしたGHを目指して……」をモットーに17年、地域と支え合っていくことに重点を置いている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和2年12月18日		

長きに渡り地域の方々と交流を深めて利用者本位のサービスを提供し、できることを引き出して生活の充実につなげています。健康面においてもかかりつけ医とはいつでも相談できる連携体制を整えており、看取りの支援にも経験に培われた知識や技術が活かされ、利用者、家族の希望に応じた終末期のケアが行われています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしくのんびりゆったりと・・・」の理念の下、理念に沿ったケアを心掛け、職員全員が理念の共有を図り実践に向けて取り組んでいる。	利用者一人ひとりが異なる生活をしてきたことを理解し、本人にとってホームでの生活が充実したものとなるよう、介護計画作成時や業務中においても理念が意識できるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や季節毎のイベントには出来る限り参加できるようにしているが、時間帯とお天気具合、職員の出勤人数を増やす事等に配慮しながら地域との付き合いを日常的に検討している。	新型コロナウイルスの影響で地域の行事は全て中止となり、これまでのような交流の機会を持つことが少なくなりましたが、近所の公園に散歩に出かけたりして地域での生活が実感できるように努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	GH事業として地域から協力や理解を頂き、電話相談やGHへの相談訪問を頂き、当社のショートスティとの連携も通して地域の方々に事業所として貢献を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議には入居者の方達の状態やリスク報告、または行政からの報告等、この地域で何が起きているのか等様々な意見を出し合ってサービス向上に努めている。	地域の方も会議の構成員になっていますが、現在は行政のみ参加して開催しています。行政以外のメンバーには資料を送付しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政、地域包括や居宅事業所、病院関係においても積極的に連絡を取り合いながら情報共有に努めている。市町村福祉担当者には運営推進会議にも参加してもらい協力を得ている。	担当部署とは随時連絡を取り合い、連携が図られています。ケア会議にも参加して情報を収集しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年秋田市で行われる身体拘束、虐待防止等の研修会に参加し、禁止の対象となる行為について理解をしている。運営推進会議においても課題として取り上げ、学ぶ機会や振り返りを行っている。	研修等を通して内容の理解と共有を図っています。利用者の状態に応じて検討を繰り返し、必要な帳票も残しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、研修会への参加や議題を設けて意識調査、知識の習得に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年横手市の研修会や、横手市GH連絡協議会の研修を通じ、制度については入居者の方が必要とされる状況と活用性について話し合い、活用できる支援としての理解に努めている。(以前は制度を利用している方がいた)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学訪問や入居時の契約において、また解約時についても十分な説明をさせて頂いている。サービス提供内容や、退去後の施設選択、社会資源等の活用も説明させて頂き、不安を抱く事の無いように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行政の介護相談の受け入れや、運営推進会議において運営状況の発信や、ご家族へのアンケート送付などを通じて施設内の状況をお伝えし、利用者の方達やご家族が抱えている要望等を反映出来る体制に努めている。	利用者及び家族からの要望等に関しては対応を検討し、また、アンケートの結果も報告してケアや運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や各担当者会議、ケア会議等毎日の申し送り時を含め、職員の意見や提案が発信できる場を設けている。職員の自己評価表においても、声として出せず、抱えている想いを記載してもらい、ヒヤリングも行うように努めている。	代表は職員の意見、要望を聞くことを心がけており、反映に努めています。新規利用者の受け入れについても事前に検討する機会を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務年数により様々な研修会への参加を促したり、資格取得への助成金制度等も設けている。長期研修会への参加時においては、他職員の協力も得られている環境である。向上心と安心して働ける場に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上記同様、職員が様々な研修会へ参加し自身のスキルアップに繋げるように、法人代表は職員の育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当法人は横手市GH連絡協議会を立ち上げ、行政との繋がりや勿論の事、事務局として地域の介護保険事業所との交流や研修会を開催する等、地域とのネットワークを作りを通じて質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者ご本人とご家族、担当CMを通じて趣味や生活歴等の情報収集を図り、安心してGHの生活が出来ることや、要望、思いを傾聴し良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前、見学時においてご本人やご家族が現在何で困っているのか、要望等を十分に傾聴し、ホームでの生活を不安なく利用して頂けるよう信頼関係づくりに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来ることへの見守りと出来ないことへの支援を図り、全職員が気づきを共有しながら、安心して共生していける関係づくりに努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月担当職員からのご家族へ生活状態をご報告し、スナップ写真も同封しながら状況をお伝えしている。特に健康面においては電話でもご報告したりしながら、ご家族と共に支え合っていく関係に努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の了解を得て友人やご近所の方との面会訪問を受けていたが、今年は感染症の件もありご遠慮頂いた。	感染防止のために家族や知人と従来のような関わり方はできませんが、職員が懐かしい場所に誘って出かける等、利用者の思いに寄り添って支援しています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方達同士が他の方達へ支障なく雑談出来るように、席替えをしたり別の場を設けたりし、孤立しないように支援に努めている。また、職員と共に入居者の方へ訪室し馴染みの関係構築の支援を図っている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご本人やご家族に寄り添い、介護保険サービスについての相談や情報提供に努めている、また、在宅サービスや施設入所についても出来る限りのフォローを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの暮らしにおける要望や訴えを十分に傾聴することに努め、職員の気づきも含め可能な限り意向に沿いながら、職員配置も検討し外出支援、ご家族への伝達等ご本人の意向把握に努めている。	自宅で暮らしていた時のことを家族から聞いたり、また、利用者と関わる時間も多く、その時の会話等、情報として知り得たことをアセスメントに繋げていけるように努めています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の趣味や生きがい等情報収集に努め、馴染みの物品を置いて頂く事等、GH生活に活かせる環境整備を図っている。入居後はご本人の動線を確認し、再度居室内の環境整備も行っている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックは勿論表情や行動等、常に職員の状態共有に努め、訪問看護や向かいの協力医院との連携を図りながら状態管理に努めている		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	前担当CMからの情報やご本人の意向、ご家族の意向をもとに、職員からの気づきを収集しプラン作成にあたっている。認知症状は提供された情報と異なっていることもあり、状態にあったプラン作成に努めている。	現状に即した介護計画となるようカンファレンスで話し合って作成しています。	利用者の内面にある思いや課題を抽出し、課題解決のための介護計画の作成とそれに基づいた全職員の取り組みを期待します。
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録用紙に支援目標を入れSOA0式の記載方法などもとっている。既往歴や気づき等を全職員が共有でき、プランの実践や見直しも含め区変時などのモニタリングも職員間で行っている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	GHに隣接する大型スーパーや公園があり、社会資源を活用し買い物や散歩に出かけている。お天気具合を見ては河川公園まで行っている。(今年は感染症の件もあり、ドライブと買い物、日向ぼっここと少なかった)		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来の主治医との連携を図りながら往診もお願いし、GHでの生活状況や身体機能状況を提供しながら適切な医療の確保を図っている。また、緊急時にはご家族の了解を得て当ホームの協力医に情報を提供し指示を仰ぐなど、支援体制を築いている。	希望に沿って対応しています。個々のかかりつけ医とは相談できる体制にあり、状態に応じて適切に支援しています。歯科については通院できない方は訪問診療が可能であり、薬局との協力関係も築かれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に1回の訪問看護体制や、24時間常に電話での医療相談等の体制にある。入居者全員のリスク表が訪看事業所にお渡ししており、的確な指示を頂く事が出来る。また、ご家族も相談出来る体制である。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のMSWを通じて治療計画を頂いたり、ムンテラの場合へ参加させて頂いたり、退院時にはサマリを提供して頂きながら、早期復帰に向けた対応を取っている。また、病院との連携や協力体制の構築を図っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には必ず説明をさせて頂いている。ご本人の状態が重度化した場合や、看取りのあり方についてご家族の意向や事業所として出来る支援できる状態なのか、協力病院を交えた話し合いの場を設ける等、支援体制に取り組んでいる。	多くの看取りの実績があり、家族が安心できる支援体制がつけられています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応はGH職員の連絡網やフローチャートに基づきマニュアル化されて事務所カウンターに設置されている。また訪看事業所との関係も取り、職員全員が事故発生時における対応を都度話し合いを行い、実践に向けた対応を訪看からも指導を受けている		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署立ち合いの訓練を実施し災害に対する避難方法や対策に取り組んでいる。火災地震、水害や夜間時等の応援態勢には近隣の方の参加を依頼し、協力体制の構築を図っている。	近隣との協力体制ができており、訓練にも参加していただいています。避難場所については設備等を考慮し、法人内の移動を想定しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの入居者の方の人格は勿論、自尊心を傷つけることの無いよう声かけや対応に配慮している。職員のアンケートも実施しながら、一つの声かけがその方を否定するようなことが無いよう、職員間で対応を心掛けている。	利用者の気持ちに配慮し、特に言葉遣いには気をつけて対応しています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に雑談の中から想いを引き出したり、希望を聞きだしたりしながら、実現に向けた対応に努めている。それがご家族への思いであれば電話やお手紙を通じて叶えられるように働きかけている。買い物、ドライブなど施設で出来ることであれば、時間帯や職員の出勤体制を確認しながら支援を図っている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	上記同様、買い物してみたい方や車で出かけた方、ご家族に会いに来てほしい方等、今日一日をどう過ごしたいのか、想いを引出し出来る限りの支援に努めている。車椅子の方は日向ぼっこに出てみる等、全てが希望に沿えないこともあるが、職員ペースにならないよう、支援優先に取り組んでいる。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりが自分らしく、理容院や美容院を利用している。また、服も「その方らしく・・・」を大切に、ご家族へ好きな色や服の形等を伺いながらおしゃれが出来るように努めている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好や口腔内の状態を把握し、状態に応じた食事形態に配慮しながら、職員が同じテーブル席につき見守りや介助を行い、楽しい食事の場となる様支援を図っている。お元気な方には他の方へ手指消毒のお手伝いをお願いしている	おやつ作りを一緒に行ったり、また、調理の過程で手伝ってくださる方もおり、その人の持てる力が発揮できるよう努めています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の旬な食材の仕入れや食べたい食材、おやつや飲み物等の聞き取りもしながら、栄養バランスや地域の習慣となっているおかずの提供等の支援を図っている。入浴後と夜間帯はポカリの提供も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず職員が付き添いの上口腔ケアを行っている。入歯は毎日消毒管理を行い、口臭で他の方達が不快とならないように配慮している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、誘導表活用や便秘予防の為の食材、おやつを選択に心掛けている。排泄に失敗しても自立に向けた支援を行っている。	チェック表で個々のパターンを確認し、トイレでの排泄を支援しています。状況に応じた声かけ、誘導が行われ、夜間には排泄用品の使用に工夫をしています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	上記同様便秘予防食の仕入れや調理方法、レク活動を通じた運動の場等を提供し、自然体での排泄が出来るよう支援に努めている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの健康状態を見ながら時間帯と順番等を話し合い、入浴を楽しみにして頂いている。全身清拭の方には洗面台でのシャンプー後足浴等を提供している。	身体状況によってシャワー浴の方もおりますが、拒否する方もなく、1日おきの入浴を楽しんでいます。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の生活習慣等を全CMやご家族より情報収集し、居室内の物品の配置や照明等安心して生活でき様な環境整備に努めている。また、室内の動線を確認し合い、安心安全な室内で良眠出来るよう支援に努めている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関から処方されたお薬は、服薬説明書により効能、副作用の確認を職員同士で確認し合い、不明な点は協力薬局へ連絡を入れ注意等の指示を頂いている。また、状態が特に変わった場合は主治医へ連絡を入れている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが趣味の継続や楽しみを見つけ出すことの支援、生活歴を活かした役割等を提供出来ることへの支援に努めている。花植え、掃除、裁縫洗濯たみ、食器拭き、モップ掛け等を通じて負担とならないような役割を持って頂いている。買い物に同行してもらい気分転換もして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	今年は頻繁な外出支援が行えなかったが、ドライブや日向ぼっこには声をかけながら行った。遠出やご家族の訪問も制限を行う中で、出来る支援提供に努めた。	コロナ禍では以前のような外出はできませんでしたが、利用者に声をかけてドライブや山菜採り、公園の散歩に出かけています。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の方全員が所持はしていないが、買い物同行時におやつを購入したり、手元に数千円を所持し安心されている方もいるいらっしゃる為、職員は一人ひとりがお金を持つ大切さを理解している。また、大切に使うことが出来る支援に努めている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月担当職員より近況報告のお手紙や写真を送付している。電話の受け渡しやご本人にハガキ等も書いて頂き、ご家族からお返事も頂いている。ご家族との想いが途切れることが無いように、出来る限りの支援に取り組んでいる。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	3回/日のホーム内の消毒や換気、加湿器等の設置を施し衛生管理も含め環境整備に努めている。また、入居者の方達が快適に過ごせるよう、照明等の備品関係の修理や交換にも配慮している。	利用者も手伝って掃除が行き届き、温度、湿度、換気にも気を配って環境整備しています。話題づくりのために利用者の日々の様子の写真を掲示し、季節の作品を飾っています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室内には背もたれ椅子の設置やテーブル、テレビ等を配置し、互いに行き来しながら雑談できる場の環境作りに努めている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具類を持ち込みして頂き、ご本人が安心して生活できるように配置にも工夫をしている。位はいを持って入居される方もおり、自然にお水の交換をされたりしている。ご本人が心地良いと感じられる工夫に努めている。	馴染みのものを持ってきていただいたり、その人の状況に合わせた環境の中で生活できるよう支援しています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの既往歴や生活歴が異なるように、その方が出来る事、支援を必要とする事への気づきを共有しながら、入居者の方の安心安全な自立した生活を目指して、日々工夫をしている		